

第6学年

～表現の工夫を捉えて読み、
それを生かして書こう～

「『鳥獣戯画』を読む」





↑
ワークシート

第6学年国語科学習指導案

1組	児童数	35名	6/9
2組	児童数	36名	7/9
3組	児童数	36名	8/9
4組	児童数	35名	3/9

- 1 **単元名** 表現の工夫を捉えて読み、それを生かして書こう
教材名 『鳥獣戯画』を読む（光村図書 6年）

2 単元目標

- ◎文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりし、それらを生かして解説文をまとめる。
- ・思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしようすることができる。〔知識及び技能（1）オ〕
 - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。〔思考力、判断力、表現力等 ウ〕
 - ・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、論の進め方を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組もうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしようとしている。	・「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。	・文章と図表などを結び付けて必要な情報を読み取ったり、論の進め方を工夫して書き表したりすることに粘り強く取り組もうとしている。

4 単元について

(1) これまでの学習経験

1学期は、筆者の主張やそれを支える事例の意図を捉え、文章に対する自分の考えをまとめることに取り組んだ。また、事実と意見の関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を理解した。

具体的には、第1教材「笑うから楽しい」で読みの力を習得し、第2教材「時計の時間と心の時間」の読みで活用した。そこから筆者の主張とそれを支える事例との関係についてさらに読み深め、筆者の意図や主張について自分の考えをまとめ、交流する学習を行った。

(2) 本教材について

本単元では、文章と図表などを結び付けて筆者が何に着目し、それをどのように読み取っているのか、筆者の書きぶり（表現の工夫、絵を見る視点、褒める言葉）を捉えて読む。また、実際に児童も教科書以外の「鳥獣戯画」の解説文をまとめるという言語活動を設定することで、児童は読み手としてだけでなく、書き手の立場も意識して読むと考えられる。アニメーション映画を数多く手がけた筆者の文章に接し、自分が書くために筆者の書きぶりを見付けながら読むという見通しをもたせたい。

5 研究主題に迫るための手だて（ユニバーサルデザインを意識した指導の工夫）

（1）授業の流れを示す掲示物（視覚化）

単元計画や1単位時間の授業の流れを提示することにより、見通しをもって学習に取り組むことができる考えた。児童自身が、学習活動を理解し、主体的に学習できるようにした。

（2）言語活動（焦点化）

単元の導入時に、教科書以外の「鳥獣戯画」のある場面を取り上げて、「この絵を解説する文章を書いてみよう。」と投げかける。この活動を経験することで、絵のどこに着目すればいいのか、それをどんな言葉で表現したらよいかという視点を持ち、主体的な学習につながると考えた。また、自分が解説文をまとめる経験をしてから本文を読むことで、筆者の書きぶりが自分とは異なり、表現の工夫、絵を見る視点、褒める言葉に着目すると考えた。そして再度、第1時と同じ絵の解説文を書くという言語活動を設定することで、文章を読む目的や必然性が明確になるようにした。初めに書いた解説文と単元の終盤に書いたものを比較し、自分の文章がより良くなったことを児童自身が実感することを期待したい。

（3）ワークシートや付箋の工夫（焦点化）

単元の導入と第7時では、教科書掲載以外の「鳥獣戯画」の絵を評価する活動を取り入れた。読み取ったことを書き込める工夫をし、文章と図表などを結び付けて考えられるようにした。また第7時では、筆者の書きぶりから選んだ言葉を黄色の付箋に、自分で考えた言葉を水色の付箋に書いて貼るようにした。その後、グループや全体交流で得た考えを付箋に書いて増やすことで、自分の考えが広がったことが視覚的にも分かるようにした。

（4）語彙力や表現力を広げる貯金箱の活用（焦点化）

「鳥獣戯画」の絵を評価するときに、「絵を見る視点」や「表現の工夫」、「絵を褒める言葉」を貯金箱（語彙を増やすためのワークシート）にまとめるようにした。ワークシート集の裏に貼り、本文から筆者の書きぶりを探すときや、自分で絵を読み取るなどでの学習課題に取り組む際に、いつでも振り返りながら活用できるようにした。

6 学び方（「うさ松の秘伝書」の項目番号）

言語形式 様々な説明的な文章に活用できる読み方	言語内容 該当教材における特有の読み方
1. 筆者の表現の工夫を捉える。(㉓㉔)	1. 筆者の表現の工夫を見付ける。 「絵の示し方」 「書き出し」 はっけよいのこった 「体言止め」 返し技。 かわず掛け。 「短文」 絵がとまっていない。動きがある。 「語りかけ」 ~ごらん。 どうだい。 ~だね。 「オノマトペ」 ぽちんと がぶりと 「比喻」 まるで~のように 「会話」 「ゲロロ」「ええい」 「断定」 ~だろうか。~にちがいない。 「ダッシュ」 ー。
2. 筆者の絵を見る視点を捉える。	2. 絵を見る視点を出し合い、分類・整理する。 「様子」 ポーズ・表情・やっていること 「部位」 足・目・口・手・骨格・耳・顔・背中 「特徴」 模様・色・形・大きさ・毛並み 「風景」 秋草の咲き乱れる野 「描かれ方」 濃淡・線
3. 筆者の絵や絵巻物を褒める言葉を捉える。	3. 本文を読み、絵や絵巻物を褒める言葉を見つける 2段落 のびのびと・見事な・気品・生き生きと・躍動している・正確に・しっかりと・~だとしか思えない 3段落 おもしろい・上手・すごく 4段落 ~と感じられる 5段落 まるで、~のように感じられる 6段落 勢いがある・動きがある・たいしたものだ・見事に~を表現している 7段落 実にすばらしい 8段落 とびきりすぐれた・上手な・楽しく・大いに 9段落 モダン・なんと~だろう・すてき・実に~している・のびのび・自由闊達・国宝・人類の宝
4. 筆者の表現の工夫がもたらす効果を考える。	4. 筆者の表現の工夫がもたらす効果について考える。 効果（1）読者を引き付ける・誘導する 「絵の示し方」「書き出し」「語りかけ」「断定」 効果（2）読者に想像させる 「オノマトペ」「比喻」「会話」「ダッシュ」 効果（3）読者をあきさせない 「体言止め」「短文」

7 学習指導計画（9時間扱い）

次	時	学習活動	○指導内容	◇支援 ★評価
一 学習の見通しをもつ	1	「鳥獣戯画」の解説文を書き、筆者の文章と比べてみよう。		
		○教科書以外の「鳥獣戯画」を見て解説文をまとめる。 ○自分と筆者の文章を比べて読み、学習感想をもつ。	○絵を見て解説文を書くこと。 ○自分と筆者の文章を比べて読み、初発の感想を書くこと。	◇自分で解説文を書いた後、教材文を読み、筆者の見方や表現の違いに気付けるようにする。 ★文章と図表などを結び付けて読み取り、解説文に書き表すことに粘り強く取り組もうとしている。
二 筆者の絵を見る視点や表現の工夫の効果を読み取る	2 (習得①)	学習計画を立て、筆者の表現の工夫を読み取ろう。		
		○筆者の書きぶりを生かして、第三次で解説文を書くという見通しをもつ。 ○書きぶり A「表現の工夫」を読み取る。(形式段落①②)	○A「表現の工夫」B「絵を見る視点」C「絵を褒める言葉」をまとめて『書きぶり』ということ。 ○学習計画を立てること。 習得① 書きぶり A「表現の工夫」を読み取ること。	◇学習計画表を用いて、どのような学習が必要か考え、計画を立てられるようにする。 ◇筆者の工夫した表現に気付けるようにする。
	3 本時 六年四組 (習得②)	筆者の絵を見る視点や褒める言葉を読み取ろう。		
		○書きぶり B「絵を見る視点」、C「褒める言葉」を読み取る。(形式段落①②) ○本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	習得② ・書きぶり B「絵を見る視点」を読み取ること。 ・書きぶり C「褒める言葉」を捉えること。 ○本時を振り返り、次時の学習を確認すること。	◇筆者が着目している部分を文章と図表などを照らし合わせながら読み取れるようにする。 ★目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けようとしている。 ★語句と語句との関係について理解し、語彙を豊かにしようとしている。
	4 (活用①)	文章と図表とを結び付け、筆者の書きぶりを読み取ろう。		
		○筆者の『書きぶり』について読み取る。(形式段落③～⑦)	○筆者の『書きぶり』について読み取ること。 活用① 習得①②を使って活用を図ること。	◇文章と図表などを照らし合わせ、筆者の物の見方に注目できるようにする。 ★目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見付けている。

	5 (活用②)	筆者の書きぶりについてまとめよう。				
	○筆者の『書きぶり』について読み取る。 (形式段落⑧⑨)	○筆者の『書きぶり』について読み取ること。 活用② 習得②を使って活用を図ること。	◇絵を褒める言葉について見付けられるようにする。	○筆者の論の進め方を捉える。	○筆者の論の進め方を捉えること。	★筆者の表現の工夫に気付き、論の進め方について考えている。
	6 本時 六年一組	筆者の表現の工夫がもたらす効果について読み取ろう。				
	○筆者の表現の工夫がもたらす効果について考える。	○表現の工夫がもたらす効果を捉えること。	◇前時までのワークシートを参考にしよう声を掛ける。	○本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	○本時を振り返り、次時の学習を確認すること。	★筆者の表現の工夫がもたらす効果について、読み取っている。
三 学んだことを生かして解説文を書き、交流する	7 本時 六年二組(応用①)	「鳥獣戯画」を自分なりの見方で読み取ろう。				
	○第1時と同じ「鳥獣戯画」を読み取る。	○これまで学習した筆者の『書きぶり』を生かして読み取ること。 応用① 習得①②を使って応用を図ること。	◇掲示物や貯金箱(ワークシート)から既習の学習を想起できるようにする。	○絵から読み取ったことをグループ・全体で交流すること。	○自分の考えを見直し、加筆修正すること。	◇友達の読み取りで良いと思ったことを加筆できるようにする。 ★目的に応じて、思考に関わる語句と図表などを結び付けて必要な情報を見付けている。

<p>8</p> <p>本時 六年三組 (応用②)</p>	<p>学んだことを生かして解説文を書き、友達と交流しよう。</p>		
<p>○絵を自分なりの見方で読み取り、整理する。</p> <p>○学んだことを生かして解説文を書く。</p> <p>○自分の解説文を見直し、加筆修正する。</p> <p>○友達の見解を読み取り、感想を伝え合う。</p>	<p>○自分なりに読み取ったことを整理すること。</p> <p>○筆者の『書きぶり』を生かして書くこと。</p> <p>応用② 習得①②を使って応用を図ること。</p> <p>○自分の解説文を見直すこと。</p> <p>○自分と友達の着眼点や表現の仕方の違いに気付くこと。</p> <p>応用③ 習得①②を使って応用を図ること。</p>	<p>◇前時のワークシートを基に、付箋を整理できるようにする。</p> <p>◇筆者の書きぶりを振り返り、解説文の構成を意識できるようにする。</p> <p>★思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っている。</p> <p>★論の進め方を工夫して書き表すことに粘り強く取り組もうとしている。</p> <p>◇自分と友達の解説文の共通点や相違点に着目できるようにする。</p>	
<p>9 (応用③)</p>	<p>初めに書いた解説文と比べて読み、学習の振り返りをしよう。</p>		
<p>○第1時で書いた解説文と比べる。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>○第1時に書いた解説文と比べること。</p> <p>○本時の振り返りをする。</p>	<p>◇第1時で書いた解説文と読み比べ、より良い文章になったことを実感できるようにする。</p>	

8 本時の指導（6／9時） 6年1組

(1) 目標 筆者の表現の工夫がもたらす効果について読み取る。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全) …全体 (個) …個別 ★評価
1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇掲示物やワークシートでこれまでの学習を振り返る。(全)
筆者の表現の工夫がもたらす効果について読み取ろう。		
2. 筆者の表現の工夫がもたらす効果について考える。 マイタイム 3. グループで交流する。 シェアタイム プラスタイム 4. 全体で交流する。 フォローアップタイム 5. 自分の考えを見直し、加筆修正をする。 プラスタイム 6. 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	○筆者の表現の工夫を確認すること。 ■表現の工夫の効果を考えてることができない。 ○表現の工夫がもたらす効果を捉えること。 ■言語を文章に加筆修正することができない。 ○表現の工夫がもたらす効果について確認すること。 ○自分の考えを見直し、加筆修正をすること。 ○本時を振り返り、次時の学習を確認すること。	◇前時までのワークシートを参考にしよう声を掛ける。(個) ◇具体的な効果を書いている児童を価値付けする。(個) ◇ロイロノートを用いて、話し合いをするようにする。(全) ◇表現の工夫がもたらす効果について価値付けする。(全) ★筆者の表現の工夫がもたらす効果について、読み取っている。

8 本時の指導（7／9時） 6年2組

(1) 目標 筆者の表現の工夫や絵を見る時の視点について学んだことを生かし、自分なりの見方で絵を読み取る。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまづき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇掲示物でこれまでの学習を振り返る。(全)
「鳥獣戯画」を自分なりの見方で読み取ろう。		
<p>2. 教科書以外の鳥獣戯画の絵を見て、これまでに読み取った筆者の『書きぶり』を振り返る。</p> <p>3. 自分なりの見方で読み取ったことをまとめる。</p> <p>マイタイム</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵から読み取ったことを筆者の『書きぶり』から選び、黄色の付箋に書く。 自分で考えた言葉は、水色の付箋に書く。 <p>4. グループで交流する。</p> <p>シェアタイム</p> <p>5. 全体で交流する。</p> <p>フォローアップタイム</p> <p>6. 自分の考えを見直し、加筆修正をする。</p> <p>プラスタイム</p> <p>7. 次時の学習を確認する。</p>	<p>○筆者の『書きぶり』を確認すること。</p> <p>○絵を見る視点や褒める言葉を意識すること。</p> <p>応用① 習得①②や貯金箱(ワークシート)に書き溜めた言葉を使って応用を図ること。</p> <p>■絵から読み取ったことが書き表せない。</p> <p>○視点に沿って付箋に書いた内容を交流すること。</p> <p>○全体で交流すること。</p> <p>○自分の考えを見直し、加筆修正すること。</p> <p>○次時の見通しをもつこと。</p>	<p>◇絵を見る視点や褒める言葉を前時までの掲示物や貯金箱(ワークシート)で確認する。(全)</p> <p>◇様々な視点で読み取れている児童を価値付けする。(個)</p> <p>◇読み取ったことを貯金箱(ワークシート)の表現から見付けるようにする。(個)</p> <p>★目的に応じて、思考に関わる語句と図表などを結び付けて必要な情報を見付けている。</p> <p>◇筆者の『書きぶり』にそって自分の考えを伝えられている児童を価値付けする。(全)</p> <p>◇読み取ったことを自分の言葉で表現した児童を価値付けする。(全)</p>

8 本時の指導（8／9時） 6年3組

(1) 目標 筆者の書きぶりを生かして、解説文を書く。

(2) 展開

学習活動	○指導内容 ■予想されるつまずき	◇支援 (全)…全体 (個)…個別 ★評価
1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○学習を振り返り、めあてを確認すること。	◇前時までに学んだ筆者の書きぶり（表現の工夫、絵を見る視点、褒める言葉）を振り返る。 (全)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 学んだことを生かして解説文を書き、友達と交流しよう。 </div>		
2. 絵を自分なりの見方で読み取り、整理する。 ・解説文に書く内容を選び、印を付ける。 3. 学んだことを生かして解説文を書く。 マイタイム 4. グループで交流する。 シェアタイム ・ロイロノートで交流し、必要な学びを加筆する。 5. 全体で交流する。 フォローアップタイム 6. 本時の振り返りをして、次時の学習を確認する。	○自分なりに読み取ったことを整理すること。 ■付箋を整理することができない。 ○筆者の『書きぶり』を生かして解説文を書くこと。 応用② 習得①②や貯金箱(ワークシート)に書き溜めた「褒める言葉」を使って応用を図ること。 ○教材文を参考にして、400字程度でまとめること。 ■解説文をまとめることができない。 ○解説文を交流し、必要な学習を加筆修正すること。 ○学んだことを生かして書くことができたか確認すること。 ○本時を振り返り、次時の学習を確認すること。	◇前時に書き出したことを整理する。(全) ◇解説文に書く内容を選び、整理できるように助言する。(個) ◇思考しながら整理している児童を価値付ける。(個) ◇教師が作成したモデル文や筆者の『書きぶり』を参考にして書けるようにする。(全) ★思考に関わる語句の量を増し、文章の中で使っている。 ★論の進め方を工夫して書き表すことに粘り強く取り組もうとしている。 ◇学んだことを生かして書くことができた児童を価値付ける。(個) ◇自分の文章を見直し、『書きぶり』の変化に気付いている児童を価値付ける。(個) ◇最初に書いた解説文と比べて、工夫して書けるようになったことに気付けるようにする。 (全)

